



夏休み号

平成28年7月20日発

# 荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [Tel.911-0149]

アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



校長 澤田 有子

『栄光の架橋』という曲は、2004年アテネオリンピックの日本応援ソングとして、ゆずの北川悠仁氏が作った曲です。制作依頼を受けた時、氏はオリンピックというテーマはあまりにも大きすぎて、オファーがきてから2か月近く全く何も書けなかったそうです。悩みぬいた末にオリンピックに臨む選手の気持ちを書くのではなく、自分が歩いて来た道を書こうと決意し、制作したのがこの曲だったそうです。生きていく中で負けることや悔しかったことは誰にでもある。でもその中で「頑張ってきてよかった」という瞬間があるはずだから、その気持ちを表現したと氏は語っています。

オリンピック中もオリンピック後も、いく度となく耳にしたこの曲ですが、28年ぶりに金メダルに輝いた体操男子団体戦後に聴いた時には、何かまったく別の曲のように感じたことを覚えています。逆転を狙った鉄棒最終演技者の富田洋之選手の気迫のこもった演技と完璧な着地、さらに放送史に残ると後に言われた NHK 刈屋富士雄アナウンサーの実況放送「伸身の新月面が描く放物線は、栄光の架橋だ！」に心を大きく揺さぶられたのかもしれません。それは、『感動』という言葉で表される感情なのでしょう。

さて、明日から始まる39日間の長い休みの中で、子どもたちが心を揺さぶられるたくさんの中に出会ってほしいと願っています。人との出会い、自然との出会い、本との出会い、日常生活の中でのさまざまな出会い。『柔らかな心』が多くの出会いを引き出してくれるはずです。また、8月5日から始まるリオデジャネイロオリンピックも多くの出会いを提供してくれるにちがいありません。

『栄光の架橋』

by ゆず

作詞・作曲 北川 悠仁

誰にも見せない泪があった 人知れず流した泪があった  
決して平らな道ではなかった  
けれど確かに歩んできた道だ  
あの時想い描いた夢の途中に今も  
何度も何度もあきらめかけた夢の途中

いくつもの日々を超えて 辿り着いた今がある  
だからもう迷わずに進めばいい  
栄光の架橋へと・・・

悔しくて眠れなかった夜があった  
恐くて震えていた夜があった

もう駄目だと全てが嫌になって逃げ出そうとした時も  
想い出せばこうしてたくさんの支えの中で歩いて来た

悲しみや苦しみの先に それぞれの光がある

さあ行こう 振り返らず走り出せばいい  
希望に満ちた空へ・・・

誰にも見せない泪があった 人知れず流した泪があった

いくつもの日々を超えて 辿り着いた今がある

だからもう迷わずに進めばいい  
栄光の架橋へと

終わらないその旅へと  
君の心へ続く架橋へと・・・